



TITLE:

# Quaternionic Manifolds

AUTHOR(S):

新田, 貴士

---

CITATION:

新田, 貴士. Quaternionic Manifolds. 数理解析研究所講究録 1992, 775: 134-140

ISSUE DATE:

1992-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/82425>

RIGHT:

# Quaternionic Manifolds

大阪大学 理学部 新田貴士

Abstract. 四元数 hyperbolic space  $\mathbb{H}^n \mathbb{H}$  と 四元数  
射影空間  $\mathbb{P}^n \mathbb{H}$  亦は  $\mathbb{H}^n$  上の quaternionic  
structure 全体、空間との関係を調べる。

序, 以下

$$G := Sp(1, n) = \left\{ A \in SL(n+1, \mathbb{H}) \mid {}^t \bar{A} \begin{pmatrix} -1 & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & 1 \end{pmatrix} A = \begin{pmatrix} 1 & & \\ & \ddots & \\ & & 1 \end{pmatrix} \right\}$$

とする。この話の出发点は 荒川氏の次の論文である。

Tsuneo Arakawa "On certain automorphic forms of  $Sp(1, n)$ ."  
彼はこの論文の中で次の事を論じている。

$dg$  を  $G = Sp(1, n)$  の Haar measure とし,  $\Gamma \subset G$   
を  $G$  の lattice として  $\int_{\Gamma \backslash G} dg < +\infty$  なるものとする。  
更に  $\tilde{P}$  を  $Sp(1)$  の  $\mathbb{C}^2$  への自然な表現  
$$\tilde{P}: Sp(1) \xrightarrow{\sim} SU(2) \text{ on } \mathbb{C}^2$$

とし,  $\bar{P}^\nu$  を  $\bar{P}$  の symmetric  $\nu$ -tensor 表現

$$\bar{P}^\nu: Sp(1) \curvearrowright \text{ on } S^\nu(\mathbb{C}^2),$$

where  $S^\nu$ : symmetric  $\nu$ -tensor on  $\mathbb{C}$ .

とする。それを自然に  $K := Sp(1) \times Sp(n)$  に

引き上げたものを  $P^\nu$  と書く。つまり  $Sp(1)$ -成分は

$\bar{P}^\nu$  で  $Sp(n)$  の方は止めておく。  $\Omega$  を  $G$  上の

Cassimir operator とすると  $\lambda: \mathbb{Q} \rightarrow \mathbb{Q}$  が決まり,

$$A_0(P \backslash G, \nu) := \{ f: G \rightarrow S^\nu(\mathbb{C}^2) \mid \textcircled{1} f(g) \text{ is ldd. on } G,$$

$$\textcircled{2} f(ygk) = P_\nu(k)^{-1} f(g) \\ \text{for } y \in P, k \in K, g \in G,$$

$$\textcircled{3} \Omega f = \lambda(1 + \frac{\nu}{2}) f \quad \}$$

の次元を Trace formula という積分表示を用いて調べられる。

上の  $A_0(P \backslash G, \nu)$  は幾何学的には次の空間と同値である:  
とき 満洲丸と共に調べた。

$$H^\nu \text{ を } G/K \text{ 上の vector 束で } G \times_{P^\nu} S^\nu(\mathbb{C}^2)$$

とする。左から  $P$  で割ると  $H^\nu$  は  $P \backslash G/K = P \backslash H^\nu/H$

上の vector 束とも考えられ, その vector 束は  $G/K$  の

Lie 環の分解から決まる接続を持ち, それは  $H^\nu$  上の

Laplacian  $\Delta$  を誘導する。

$$\{ \tilde{f} \in P_{\infty}(P \setminus H^*H, H^*) \mid, \quad \tilde{f}: \text{odd}, \quad \Delta \tilde{f} = M(v) \tilde{f} \}$$

但し,  $M(v)$  は  $v$  のある関数である.  $A_0$  と上の空間との対応は自然なものである.

よ: 以下考えたい問題は次である.

"  $H^*H$  の  $P \setminus H^*H$  は何か幾何学的意味があるか? 例えば何か幾何学的構造のモジュライ空間になっているとか."

本論,

$P^nH$  を quaternionic projective space とすると, それを  $Sp(n+1)/Sp(1) \times Sp(n)$  なる対称空間の形で書けた.

$Sp(n)$  の  $\mathbb{C}^{2n}$  への自然な表現を

$$P_E: Sp(n) \hookrightarrow SU(2n) \text{ on } \mathbb{C}^{2n}$$

と書き,  $P_E$  で  $Sp(n+1)/Sp(1) \times id$  に  $\mathbb{C}^{2n}$  をはり合せた complex vector bundle を  $E$  と書くとき,  $[M_i]$

で  $Y$  は上のある種の Yang-Mills connection の

moduli space は  $SL(n+1)/Sp(n+1)$  になることを

示した. 調べたい  $H^*H = Sp(1, n)/Sp(1) \times Sp(n)$  は

$SL(n+1)/Sp(n+1)$  に自然に totally geodesic submfd.

として入っている. つまり  $H^*H$  の各元は  $E$  上の

Yang-Mills connection である条件を満たすものである.

$\gamma$ :  $\tau$  の条件を調べよう。  $[N_i]$  の  $SL(n+1, \mathbb{H})/Sp(n+1)$   
 と Yang-Mills connection との対応を見よう。

$A \in SL(n+1, \mathbb{H})$  に対して  $P^n\mathbb{H}$  上の quaternionic  
 rank  $n$  の vector bundle  $E_A$  を

$$\begin{array}{ccc} P^n\mathbb{H} \times \mathbb{H}^{n+1} \supset E_A & \supset & (E_A)_{[h]} \stackrel{\text{def.}}{=} \{v \in \mathbb{H}^{n+1} \mid {}^t\bar{v} {}^t\bar{A} A h = 0\} \\ \downarrow & & \downarrow \\ P^n\mathbb{H} & \rightarrow & [h] \end{array}$$

と定義し,  $E_A$  上の connection を  $P^n\mathbb{H} \times \mathbb{H}^{n+1}$  の flat connection  
 の制限 connection とする。特に  $A = \text{id}$  の時  $E_{\text{id}} = E$   
 となり  $E_A$  は  $E$  と  $C^\infty$  vector bundle として同型な  $\tau$  の  
 $E_A$  の上で定義した connection を  $E$  に引き戻した  
 connection を  $\nabla_A$  とすると これは Yang-Mills connection  
 となり,  $A$  に対し  $\nabla_A$  を対応させた。つまり  $U$  を  
 quaternionic universal bundle :

$$\begin{array}{ccc} P^n\mathbb{H} \times \mathbb{H}^{n+1} \supset U & \supset & (U)_{[h]} \stackrel{\text{def.}}{=} \{v \in \mathbb{H}^{n+1} \mid v \in h \cdot \mathbb{H}\} \\ \downarrow & & \downarrow \\ P^n\mathbb{H} & \rightarrow & [h] \end{array}$$

とすると,  $P^n\mathbb{H} \times \mathbb{H}^{n+1} = U \oplus E_A$  だが,  $\gamma = 1$  に  
 依存する connection を入れた,  $\gamma = \tau$   $E_A$  の条件から  
 $A$  を  $P^n\mathbb{H} \times \mathbb{H}^{n+1}$  の bundle automorphism と考えたと  
 $U \oplus E_A \simeq A(U) \oplus A(E_A)$  で右辺は

直交分解にたがっている。特に  $A \in Sp(1, n)$  の時,

bundle automorphism  $A$  に対して  $\begin{pmatrix} 1 & \\ & \vdots \end{pmatrix} = J$  なる

quaternionic Hermitian structure は変わらない。すなわち

$\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ \vdots \end{pmatrix}$  の上では  $(U)_{\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ \vdots \end{pmatrix}}$  と  $(E_A)_{\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ \vdots \end{pmatrix}}$  は  $J$  に対して直交している。

更に  $P^n\mathbb{H}$  の tangent bundle  $TP^n\mathbb{H} = U^* \otimes_{\mathbb{H}} E$  として

ある。  $U$  には自然な connection  $\nabla_0$  がある。  $P^n\mathbb{H} \times \mathbb{H}^{n+1}$

の制限として  $(U, \nabla_0)^* \otimes_{\mathbb{H}} (E, \nabla_A)$  として

$TP^n\mathbb{H}$  上の connection が決まる。

principal bundle の言葉でいうと、

$TP^n\mathbb{H}$  の frame bundle を  $Sp(n+1)$  とする時、

$TP^n\mathbb{H}$  の connection は  $\mathfrak{sp}(n+1)$  上の Lie algebra

の分解を  $Sp(n+1)$  として定めたものである。

vertical 方向は  $\mathfrak{sp}(1) \oplus \mathfrak{sp}(n) \hookrightarrow \mathfrak{sp}(n+1)$

の image として、horizontal 方向はそれ

$\mathfrak{sp}(n+1)$  の中での直交補空間である。この時、

$(U, \nabla_0)^* \otimes (E, \nabla_A)$  とは、standard として

$\mathfrak{sp}(1) \oplus \mathfrak{sp}(n) \hookrightarrow \begin{pmatrix} \mathfrak{sp}(1) & 0 \\ 0 & \mathfrak{sp}(n) \end{pmatrix} \subset \mathfrak{sp}(n+1)$  なる

埋め込みを  $A x^t \bar{A}$  (for  $x \in \mathfrak{sp}(n+1)$ ) として

変化させたものに他ならない。この  $A$  に依存する

$\mathfrak{sp}(1) \oplus \mathfrak{sp}(n)$  の埋め込みを  $f_A$  と書く。

$A \in Sp(1, n)$  の時  $f_A(\mathfrak{sp}(1))$  と  $f_A(\mathfrak{sp}(n))$  は

$J = \begin{pmatrix} -1 & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & 1 \end{pmatrix}$  であり、 $J$  直交している。この条件と  
 (\*) と 書くとき、 $A \in Sp(1, n)$  の時、 $(U, \nabla_U)^* \otimes (E, \nabla_A)$   
 は (\*) を 満たす  $TP^nH$  上の  $Sp(1) \cdot GL(n, H)$ -connection  
 である。また 逆も言える。まとめると、

$$H^n H \cong \left\{ P^n H \text{ 上の } Sp(1) \cdot GL(n, H)\text{-linear} \right. \\ \left. \text{connection s.t. (*)} \right\}$$

と なる。

また、 $\Gamma' \subset SL(n+1, H)$  discrete subgroup と  
 する時、 $\Gamma'$  の元は 自然に  $TP^n H$  の bundle automorphism  
 と 考えられ それに応じて connection の moduli space  
 $H^n H$  上の automorphism を 対応させた。つまり、

$$\Gamma' \subset SL(n+1, H) \quad \rightsquigarrow \quad \Gamma \subset Sp(1, n)$$

なる対応が 定義された。この対応で、

$$\underline{\Gamma \backslash H^n H} \cong \left\{ \underline{\Gamma' \backslash P^n H \text{ 上の } Sp(1) \cdot GL(n, H)\text{-linear}} \right. \\ \left. \text{connection s.t. (*)} \right\}$$

と なる。

注、なほ、ここであって、この問題について 満洲化け別の  
 解答を得ている。

## Reference

- [Ar] T. Arakawa ; On certain automorphic forms of  $Sp(1, g)$ , Taniguchi Symp, Katata '83, Birkhäuser '84
- [Ni] T. Nitta ; Compactification of Moduli spaces of Einstein-Hermitian Connections for null-correlation bundles , Adv. Study 18.1. '90  
397-416.